

CalDesk 2.0: さらに柔軟に

- 操作の簡素化と高速化
- 新しいインターフェース – LINバスとXCP on Ethernet
- 様々な新機能

dSPACEの汎用的な計測、適合、診断ツールの新バージョンCalDesk 2.0は、外観が新しくなります。新しくなったユーザーインターフェースは、作業を簡単かつ高速にする数々の便利な機能を備えています。このツールは多くの新機能と機能強化があり、さまざまなECUプロジェクトでより柔軟に使用できます。たとえば、LINバスおよびXCP on Ethernetを新しくサポートしています。

さらに使いやすく

CalDeskバージョン2.0は、最新のWindowsテクノロジーに基づいてユーザーインターフェースを見直しました。

また、新たに計器ライブラリが追加されたため、計器をドラッグ＆ドロップで割り当てるだけで複雑なレイアウトを簡単に作成することができます。変数リストの変数も、マウスまたはキーボードを使って同じくらい簡単に割り当てることができます。

さらにユーザ自身で計器を構成する場合は、使うたびに再設定しなくて済むようにライブラリにそれらを登録することができます。

CalDesk 2.0では、特殊な編集モードに切り替えなくてもレイアウトを編集できます。また、作業をさらに簡単にするため、メニュー構造が見直され、ショートカットキーがメニューとツールヒントに表示されるようになっています。

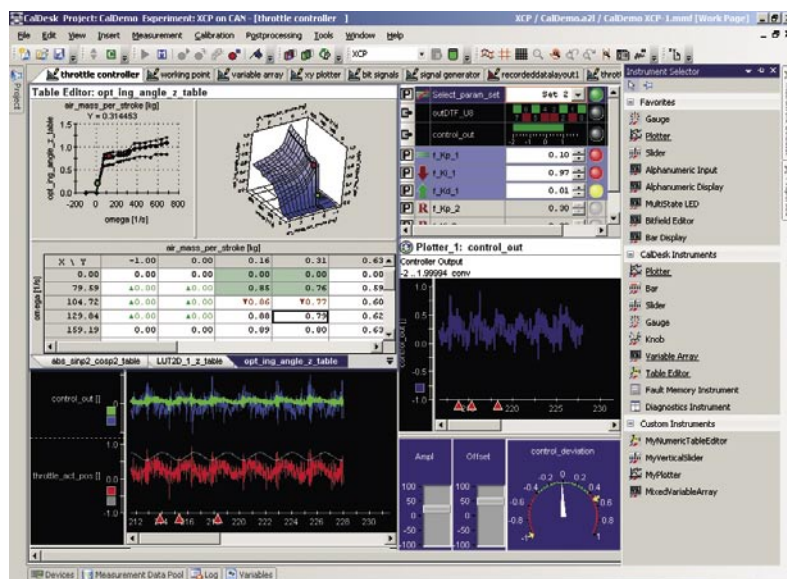
画面の端にある新しいコントロールバーで、計器ライブラリや変数リストなどのツールウィンドウの表示/非表示をすばやく切り換え、表示エリア全体を使って計器レイアウトを見やすく表示することができます。

Variable Array: 新しいオールラウンド計測ツール

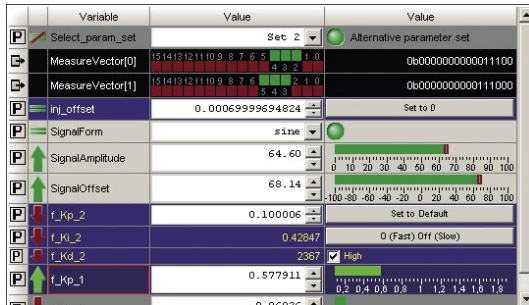
計器セット自体も拡張されています。新しいVariable Array計器はさまざまなオプションを備え、ほとんどオールラウンドに活躍します。入力フィールド、ビットフィールド、スライドコントロール、ステータスLED、および新しいPushボタン、On/Offボタン、Checkボタンを1つの計器内で自由に組み合わせて使用することができます。さらに、統合された値範囲チェックといったオプションを使えば、Variable Arrayですべての関連情報を一目で見ることができるようになります。

さらに多目的に

CalDeskは、汎用的な計測および適合ツールとして、現在のECUソフトウェアの各開発プロセスにおける様々なシナリオに使用されるようになっています。バージョン2.0ではこのために、多彩な新オプションを用意しています。



▲ CalDesk 2.0の新しいユーザーインターフェースは効率性の向上を目的として設計され、計器ライブラリなどの新機能を備えています。



▲ 新しい Variable Array によって計測変数の新しいオプションが利用できます。

■ LIN バス信号の記録

LIN (Local Interconnect Network) バスは多くの自動車メーカーで標準になっています。CalDesk 2.0 では、LDF ファイルに記述される LIN バスの物理信号の計測と記録をサポートします。

■ XCP on Ethernet のサポート

XCP on Ethernet インターフェースの重要性が増している理由は、計測帯域幅の大きさだけではありません。CalDesk 2.0 では、XCP on Ethernet 用に、TCP/IP と UDP/IP の両プロトコルをサポートします。

■ 専用のデータセグメントを使用せずに ECU を適合

CalDesk 2.0 では、適合パラメータ用に独立したメモリ領域を持たない ECU の適合が可能です。これを行うため、CalDesk の計器に接続された適合変数のみをアップロードおよびダウンロードすることが可能です。また、CalDesk 内から、ECU 記述ファイル内の計測信号として定義された変数を変更することもできるようになりました。

■ ODX ファイルの識別子を使用した計測

CalDesk 2.0 を使用すると、ODX ファイルからの診断データ（識別子）を計測および適合計器にも使用できます。その後、適合インターフェースの代わりに診断インターフェースを経由して、ECU 上で単純な計測および適合タスクを実行できます。

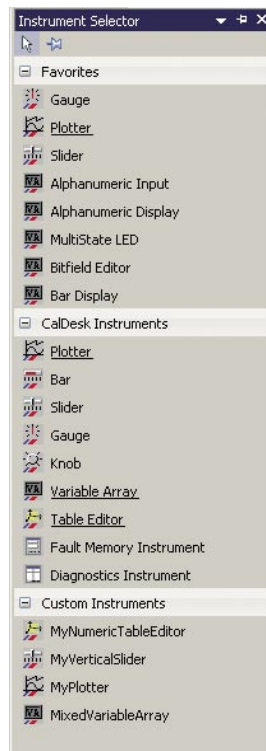
その他の新機能

テストドライブでは通常、数百 MB のサイズの計測ファイルが生成されます。ただし多くの場合、評価の目的に関係するのは、特定の時間間隔、あるいは単に選択した信号のみです。この状況において、CalDesk 2.0 では、プロッタ計器に表示された正確な時間間隔と信号を保存するオプションを、データ削減あり、なしの両方で新しい計測ファイルに保存するオプションを提供しています。したがって、この計測ファイルには本当に必要な情報しか含まれず、扱いやすいサイズになっています。

他にも、CalDesk 2.0 にはあらゆる分野にわたる機能強化と新機能があります。

- パラメータ変更のアンドゥ / リドゥと変更履歴の表示
- 自動化されたインターフェース経由でのデータ記録
- ソフトウェアバージョン変更のスピードアップ
- データセットマネージャの強化
- 16 進エディタ
- ECU 診断での GMLAN のサポート

多くの新機能により、CalDesk の操作がさらに簡単に、さらに効率的になります。CalDesk2.0 は、ECU ソフトウェアの各開発プロセスにおける様々なアプリケーションシナリオを包括的に支援するツールとして進化を続けていきます。XCP on FlexRay についても、今年中にお客様にご利用いただけるように開発を進めています。



◀ 新しい計器ライブラリ。ユーザがあらかじめ設定したカスタム計器も表示されています。